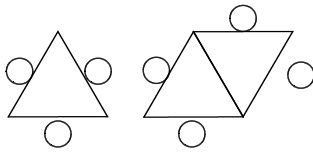


児童の条件を変えた取り組み例

< A 児 >

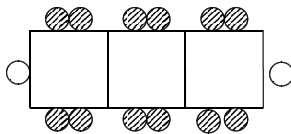
テーブルの形を正三角形にし、1辺に1つのいすを置いた。 $+ 2 =$ という式で表すことができる。



テーブルの数	1	2	3	4	5
いすの数	3	4	5	6	7

< B 児 >

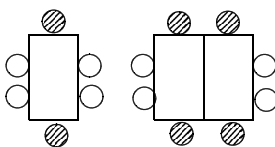
正方形の縦の辺に1つ、横の辺に2つのいすを置いた。六角形の時と同じで、 $4 \times + 2 =$ という式で表すことができる。



テーブルの数	1	2	3	4	5
いすの数	6	10	14	18	22

< C 児 >

テーブルの形を長方形にし、縦の辺に2つ、横の辺に1つのいすを置いた。 $2 \times + 4 =$ という式で表すことができる。



テーブルの数	1	2	3	4	5
いすの数	6	8	10	12	14

< D 児 >

「5年1組38人が座るためには、テーブルがいくつ必要か。」という問題を設定し、平行四辺形、五角形、六角形のそれぞれの場合を考えていった。

平行四辺形の場合 $(38 - 2) \div 2 = 18$ 答え 18個

五角形の場合 $(38 - 2) \div 3 = 12$ 答え 12個

六角形の場合 $(38 - 2) \div 4 = 9$ 答え 9個